

生涯學習情報誌

Life Learning

10

2015
Oct.
NO.302





中国舞踊教室の運営を通じた異文化交流促進事業

●陳美霖 (ちん めいりん) さん

日本の文化が大好きで日本に来たが、日本では中国の文化が知られていない。56の民族ごとに違い、日常的に楽しんでいる中国舞踊を日本で紹介し、異文化交流に役立ちたい。審査待ち時間に美しい舞踊を見せてくれた。



新電力評価のプラットフォーム「エネクラシー」～スマートな消費者が選択するエネルギーベストミックス社会～

●伊藤福朗 (いとう ふくお) さん

電力自由化により参入する企業は600社とも言われる中、消費者が選択基準を考える場となるWebプラットフォームを計画。比較だけでなく、民主的選択による持続可能エネルギーのベストミックス社会実現にも寄与。



多国籍オーケストラで世界と繋がる感動体験を

●飯島智珠 (いじま ともみ) さん

初めてオーケストラの一員としてステージに上った時、とても感動した。多くの人と目的を共有し音楽を作り上げていくオーケストラ体験は人を成長させる。同時に日本のオーケストラの活動拡大にも繋げたい。



社会起業家活動報告

グランプリ獲得を機に様々な動きが格闘技選手の育成とジムのFC展開

●2015冬グランプリ獲得 山城裕之さん

グランプリで注目され具体的なビジネスの話が来るようになった。この半年、株式会社を設立、湘南エリアに3支部を展開、実業団所属選手もチャンピオン等に成長、コンビニやコインパーキングと提携したFCも進行中だ。



世界最貧国マダガスカルの世界最高級ラフィアで紡ぐバッグ

●絹巻千枝 (きぬまき ちえ) さん

JICAで15年支援に関わってきたがアフリカの貧困層はむしろ増えている。マダガスカル人は手先が器用で勤勉。高級ファッション素材として注目されるラフィアのバッグを現地生産し、日本向けの輸出産業にしたい。



「起業家の志を応援しながら自らも成長する」チャレンジスター☆サポーターズの挑戦！

●齊藤学 (さとう まなぶ) さん

東北は人口減、高齢化、雇用など日本全体の問題を先取りしている。起業が盛んな仙台から全国に起業家を紹介し、サポーターからは人脈、販路、情報などの支援を募る。日本の起業家を支える社会インフラに育てたい。

「グランプリは、該当者なし」。田坂広志審査委員長がそう告げた、初めて残念な結果になった「ソーシャルビジネスグランプリ2015夏」(財団後援イベント)は8月29日に開催された。該当なしの理由は、ビジネスのスケールやソーシャルインパクトが弱いこと。田坂氏は直前の基調講演で、「なぜ、優れた社会起業家は『多重人格』なのか?」というタイトルで、志やビジョンだけでなく、具体的な戦術、人やお金を動かす技術など、大きな変革を起こす社会起業家には欠かせない能力があることを訴えており、他の審査員もその点に触れる場面が多く見られた。

審査員の一人、町井則雄氏は「私が所属する日本財団は多くの社会事業に助成しているが、その原資はポートレイスというギャンブル。けしてソーシャルとは言えないが、現実的で持続性のあるシステム」と一例を挙げた。

グランプリには届かなかったが、観客の共感度で選ばれる共感大賞には絹巻千枝氏が、審査員奨励賞として中国人の陳美霖氏が選ばれた。

政治起業家活動報告として、俳優の伊勢谷友介氏の現代版松下村塾がスクリーンで紹介され、前回グランプリの山城裕之氏は弟子2人と登壇した。



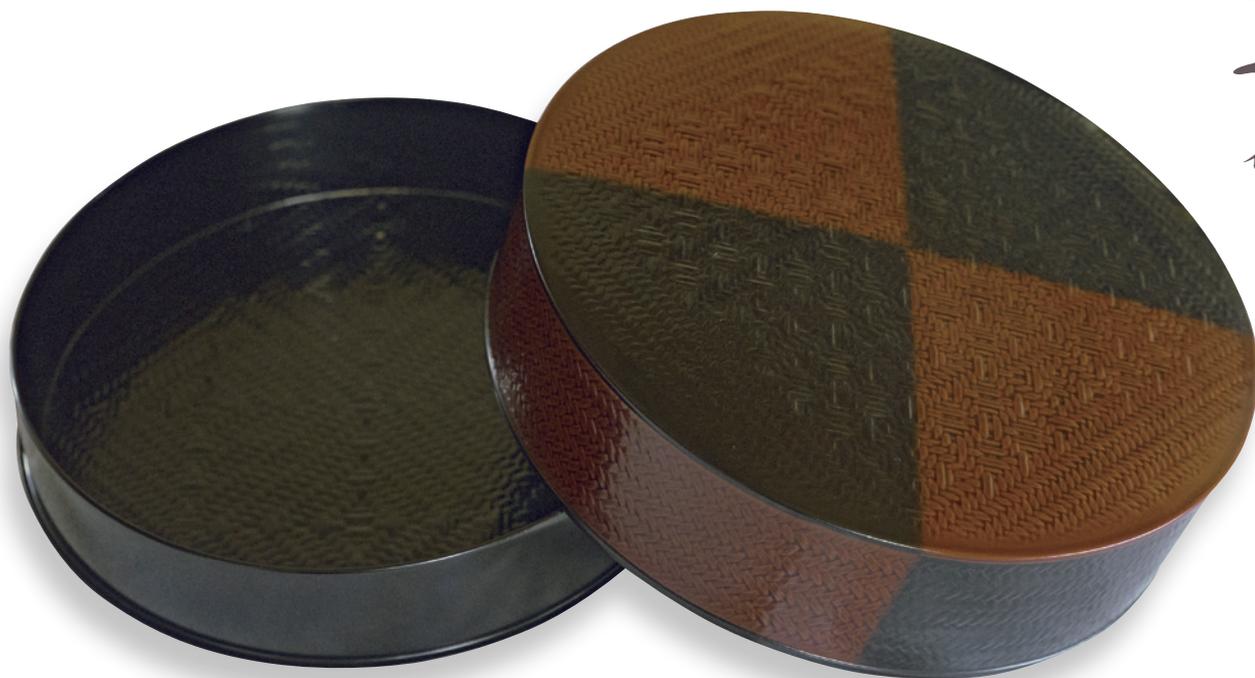
社会起業大学の田中勇一理事長は、「グランプリ該当なしは残念だが、厳しく温かいメッセージに感謝と反省をしている。でも小さな一歩は大切。一人ひとりが持つ力を信じて、いっしょに社会を変えていきましょう!」と締めた。



前回グランプリの山城氏は、日本一クラスの2人の弟子と登壇し、激しいミット打ちなどを披露した。



田坂審査委員長は総評で、「個々の志にはもちろん敬服するが、社会起業が珍しくなくなった昨今、もう一段高いステージに進む我々の宣言としての該当者なしです。今日は社会起業大学の受講生だけでなく、審査員、観客、皆にとって大切な最終講義となったはず」と述べた。



漆塗りは、いい形の器にいい着物を着せる作業

漆芸

小森邦衛

Komori Kunie

1945年 石川県輪島市に生まれる(本名・邦博)
 1977年 第24回日本伝統工芸展入選
 1986年 第33回日本伝統工芸展出品作「曲輪造藍胎喰籠」でNHK会長賞受賞(第36回展でも同賞受賞)
 2002年 第49回日本伝統工芸展出品作「曲輪造藍胎盤「黎明」」が日本工芸会保持者賞を受賞、文化庁が同作品を購入
 2004年 第14回MOA岡田茂吉賞工芸部門大賞を受賞
 2006年 重要無形文化財髹漆保持者認定(人間国宝)
 2015年 旭日小綬章受賞
 公益社団法人日本工芸会常任理事・漆芸部会長



輪島塗の新境地を開いたとして、2006年に人間国宝に認定された小森邦衛さんを訪ねた。輪島には漆、櫨、檜など漆器の材料となる木々や適した気候風土、北前船という交易上の利点があった。そこに加賀前田藩の文化奨励策が加わり、近年輪島塗は日本を代表する美術工芸品に発展したと言われる。しかし、美しさや何重にも漆を塗り重ねた堅牢さなど、製品そのものの魅力が人を惹きつけた理由であることは言うまでもない。

——人間国宝として認定される理由にもなった「髹漆」とは、また数々の受賞作に冠される「曲輪造藍胎」とはどういった技術ですか。

髹漆とは素地に麻布を貼り、籠で下地を6、7回付け、砥石、木炭で研ぎ、精製した漆を刷毛で4、5回塗り仕上げる技法のことです。地場産業の輪島塗は、下地付、地研ぎ、中塗、中塗研ぎ、上塗、呂色と完全に分業制で、仕上げは呂色と塗立(花塗)があります。私は曲輪造と藍胎の2つの技法を使って素地から作り、塗り上げ、仕上げは花塗という漆本来の艶を大切に生かす技法を用います。41歳で第33回日本伝統工芸展で受賞した時、曲輪造と藍胎の特長を生かした作品が評価を受けたものと思っています。2つの技法を使い作品として完成させているのは、私だけではないでしょうか。いかに品格のあるものに仕上げるかが一番大事だと思います。

曲輪は櫨や檜などの木材を柁目に沿って割り、2〜6mmの厚さに製材し、それらを2重から5重に組み合わせ漆器の素地とします。それを曲輪造といいます。

藍胎は真竹を削いで厚さ0.2mm、幅を1.5〜2.5

mmまで作り、器物に合わせ網代に編み込みます。網代の技法は三本網代、開き・閉じ網代、さらに花網代等があります。竹を素地に使うことにより、狂いの少ない丈夫な漆器が生まれます。

——竹を編んだ目が模様となって浮き出ていますね。

これが網代の技術です。例えば幅の違う竹ひごを編んでいくと波の文様になります。竹は丈夫で軽く変形しないため、古来から使われており、正倉院の御物にあるほどです。色彩も含めて加飾の過ぎた作品にありがちなしつこさのない、飽きのこない上品さが表現できます。もとは網目を塗りつぶしていたのですが、編み目をデザインとして活かす方が面白いのではと、ひらめいたのが30代半ばのことです。

——漆芸に進むきっかけや転機はありましたか。

中学を卒業後、和家具を作る仕事に就きましたが、体が小さくて筆筒を担いだりするのがきつく、何か他の仕事はないかと探しました。その時、輪島塗の「沈金」という作業を見て、これならできそうだと、仕事後の夜間だけ通い始めたのがきっかけでした。しばらくして弟子にならないかと誘われ、昼間の仕事を辞め弟子入りをしました。3、4時間ずつと座ったままの作業が多いのですが、それが苦でなかったのが、性格的に向いていたというのがあります。

20歳になる頃に地元で輪島漆芸技術研修所が設立され、私も師匠の勧めで2期生として入所しました。そこで人間国宝の松田権六先生と出会ったことが、大きな転機となりました。松田先生は漆器は輪島塗だけではないことを様々な形で教えてくれました。漆塗りの基本は素地が良い形・良い骨格を持っていて、そこに漆を塗っていく。「いい着物を着せる感じ」と言われました。最後に沈金なり蒔絵なりで化粧し、漆器という塗り物になるわけですが、「大事なものは化粧ではなく骨格、それがあつ

曲輪造の縁の部分は右のような構造に。組み上げると角度によって朱と金の面が違った表情を見せる。



網目の波の模様は幅の違う竹ひごを編んでいる。



竹を編んだ素地に何層にも漆を重ねていく籃胎。



聞き手:上野由美子(左)

古代オリエントガラス研究家。UCL(ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン)考古学研究所在籍中。2012年国際日本伝統工芸振興会の評議員。ARTP副団長として王家の谷発掘プロジェクトに参加(1999年~2002年)。聖心女子大学卒業論文「ペルシアガラスにおける円形切り装飾に関する考察」、修士論文「紀元前2000年紀に於けるコア・ガラス容器製作の線紋装飾に関する考察」ほか、執筆・著書多数。

いまもずっと作業の音だけが聞こえています。ラジオも音楽もかけません。仕事の音だけ聞きながら夢中で作業している時が、一番アイデアが出るんです。

——そうした未来につなげるアイデアは。

漆芸品は世界に誇れる美術工芸品ですが、現在の日本人の生活の中で使われているとは言いがたい状況です。需要がなければ大切な技術は途絶えますし、それらを作る道具や材料も衰退していきます。子供のうちから漆器の良さや美しさを実感してもらい、大事に扱ってもらうことは、子供たちの教育にもなると思います。

——今後の漆器やご自身の作品へのお考えは。

漆芸品は世界に誇れる美術工芸品ですが、現在の日本人の生活の中で使われているとは言いがたい状況です。需要がなければ大切な技術は途絶えますし、それらを作る道具や材料も衰退していきます。子供のうちから漆器の良さや美しさを実感してもらい、大事に扱ってもらうことは、子供たちの教育にもなると思います。

——お弟子さんが作業中ですが、地元の方々ですか。輪島漆芸技術研修所の卒業生で、現在5人の弟子を育てていますが、輪島の人は一人もいません。全国各地から来ています。輪島塗には細かく言うと1000くらいの工程があり、通常の工房では分業します。しかし私の工房は、漆芸家を育てることだと思っておりますので、弟子が4年をめどに年期が明け、独立して、自分で一通りできるように指導しています。

日本文化は自然や季節と寄り添うことで育まれてきました。忘れがちな「旬」の味わいをお届けします。

◆きのこことベーコンのパスタ

〈材料／2人分〉

スパゲッティ……………200g
 ベーコン……………3～4枚
 シイタケ・エノキ・シメジ・マイタケ・ヒラタケ
 ……………各50g
 ニンニク（スライス）……………1片分
 赤唐辛子（種を取る）……………1本
 オリーブ油……………適量
 塩……………適量
 万能ネギ（小口切り）……………少々

〈作り方〉

- ①シイタケは石づきを切って、手で食べやすく裂き、ヒラタケ・シメジは石づきを切って、小房に分ける。マイタケも手で裂き、エノキは石づきを切って長ければ半分に切り、ほぐしておく。
- ②ベーコンは2cm幅に切る。
- ③フライパンにオリーブ油大さじ2～3を熱して、②のベーコンをカリッとすするまで炒めてから取り出す。このフライパンにスライスしたニンニクと赤唐辛子を加えて炒め、香りが出てきたらきのこを加え、強火で手早く炒め合わせる。
- ④きのこがしんなりしたら、スパゲッティの茹で湯1/2カップと塩小さじ1/2を加えて、強火で煮る。
- ⑤茹で上がったスパゲッティの水気をよく切って、③のフライパンに加え、炒めたベーコンも戻し入れて、全体を混ぜ合わせる。
- ⑥皿に盛り付け、オリーブ油を少々振りかけて、小口切りの万能ネギを散らして仕上げる。

きのこのこ



提供：FLAネットワーク協会

一般社団法人FLAネットワーク協会では、食生活アドバイザー®検定を通して、正しい食事を生活とともに提案し、適切な助言や指導ができる食生活の専門家を育成しています。また、様々な面で優れている和食の見直しと普及にも力を注いでいます。お問い合わせは▶TEL 0120-86-3593

中国では不老長寿の薬として、きのこ類（特にシイタケ）が愛用されてきました。成分の90%が水分、食物繊維が豊富で、エネルギー量はほぼゼロ。ダイエット向けの食品として知られていますが、生活習慣病予防にも役立つ優良食品なのです。最近では、「シイタケの胞子に強力な抗ウイルス性の物質を作らせる働きがある」、「マイタケを食べると白血球の食菌作用（細菌を殺す働き）が強化された」、「エノキは消化器系がんに効果的」などのうれしい研究報告があります。きのこの成分で忘れてならないのがビタミンD。ビタミンDは妊産婦・授乳婦・幼児・高齢者には特に必要です。カルシウムやリンの吸収を促進し、骨を発育させ、骨粗しょう症の予防にもなります。きのこ類のビタミンDは、エルゴステロールという成分で存在していて、日光に当たるとビタミンDに変わります。なので、干しシイタケを戻して使うのが最適ですが、生のキノコを使う場合でも、直前に2時間くらい天日に当てることをお勧めします。また、きのこのビタミンB₂とタンパク質食品との組み合わせは、美肌に効果があるようです。きのこは傷みやすく、冷蔵しても保存は2～3日が限度。長期保存したい場合は冷凍しましょう。冷凍することで旨味が高まるなどの報告があります。